

門司港修築工事概要

(昭和六年四月)

緒言

門司港ハ九州ノ北端ニ位シ關門海峽ヲ隔テテ下關港ト相對ス、東南ノ二面ハ概ネ山岳ニ圍繞セラレ、瀬戸内海方面ヨリノ波浪ハ完全ニ其ノ浸入ヲ防止セラレ、西方ニハ海峽ノ咽喉ヲ扼スル彦島ノ存スルアリ、對岸下關附近ノ丘陵ト相俟ツテ日本海方面ヨリ來ル風浪ヲ防グヲ以テ港内靜穩ニシテ船舶ノ碇泊安全ナリ。

本港ハ都市トシテノ發達ハ近年ニシテ、明治初年ニ於テハ海ニ繫船ノ便ナク僅カニ漁家ノ點在セシニ過ギザリシガ維新以來世界交通ノ漸次頻繁トナルニ從ヒ、地勢上其要衝ニ當リ加フルニ筑豊炭田採掘ノ隆盛ニ伴ヒ、船用炭及輸出炭ノ當港ヲ經由スルモ

ノ増々大トナリ、明治二十一年六月ニハ九州鐵道ノ起點ヲ此ノ地ニ置カレ、次イデ二十二年三月門司築港株式會社ノ創立成リテ、海面ノ埋立、埠頭ノ築造、運河ノ開鑿、船溜ノ設備等ノ工ヲ起シ、加フルニ十一月ニハ石炭外四品ノ特別輸出港ニ指定セラレ本港發展ノ機運ハ駿々トシテ進ミ更ニ大正五年ニ至リ大藏省ハ工費二十萬六千餘圓ヲ以テ東海岸ニ長サ約五百四十米、幅約五十四米ノ埋立及岸壁ヲ築設シ其ノ北端ニ續キテ長サ約百十米ノ防波堤ヲ築造シ、同六年十月其ノ竣工スルヤ直チニ上屋二棟（延約九千六百平方米）ヲ建築シテ外國貿易ノ用ニ供シ次イデ同年八月門司市ハ工費四十二萬餘圓ヲ以テ其ノ東北舊門司ノ沿岸ニ長サ約五百三十米、幅約四十五米ノ埋立及岸壁並ニ長サ約百八十二米ノ防波堤ノ築造工事ヲ起シ同八年八月之ヲ竣工セシメタル外、明治四十三年度以降内務省直轄ノ下ニ施行中ノ關門海峽改良工事ニヨリ港内並ニ航路ノ水深ハ漸次増加セラレ、港灣施設ノ體稍々備フニ至レリ。

然レドモ是等岸壁ハ干潮時ニ於テ其ノ前面僅ニ一・八米乃至三・六米ノ水深ヲ有スルニ過ギズ漸ク三百噸以下ノ小船ヲ繫留シ得ルニ止マレリ、翻ツテ考フルニ本港ニ於ケル船舶出入ノ頻繁ナル本邦諸港ノ首位ヲ占メ其ノ噸數一ケ年二千五百萬噸ヲ上下シ内國貿易亦年々堅實ニ發達シ輸出入貨物一ケ年約三百三十萬噸ヲ算スルニ及ビシモ前述ノ如ク繫船及荷役ノ設備ニ至リテハ極メテ貧弱ニシテ之等貨物ノ殆ンド全部ハ沖荷役ニ依リ處分セラルルノ状態ナリシ爲海陸連絡ノ設備ヲ完成スルハ寔ニ焦眉ノ急トナレリ、ココニ於テ大正八年度ヨリ本港修築工事ヲ内務省直轄工事トシテ施行スルコトトナリ、爾來十二星霜ヲ經テ昭和六年三月迄ニ殆ド竣工スルニ至レリ、今其ノ概要ヲ左ニ叙セントス。

計畫ノ大要

本工事ハ當初豫算五百二十五萬圓（内八十七萬五千圓門司市負擔）ヲ以テ大正八年度起工同十五年度ニ至ル八ケ年度ノ繼續事業トシテ施行ノ計畫ナリシガ、中途國家財

政ノ都合ニヨリ大正十二年度ニ於テ工期二ヶ年同十四年度ニ於テ一ヶ年ヲ各々延長シ超ヘテ昭和三年度ニ工費不足額三十四萬圓ヲ追加シ、更ニ同四年度ニ於テ一部計畫變更ニ伴フ工費三十一萬圓ヲ追加シ且ツ既定豫算ヨリ一萬圓ヲ減額シ豫算總額五百八十九萬圓（内百三萬圓門司市負擔）トスルト共ニ工期一ヶ年ヲ延長シ、竣工期ハ昭和五年度トナリシモ、其年度内ニ工事竣功ニ至ラザルヲ以テ一部ヲ同六年度ニ繰越セリ。計畫ノ大要左ノ如シ。

(イ) 白木崎ヨリ北東ニ向ヒ在來海岸線ニ並行シ、幅平均九十一米、延長一千三百二十七米ヲ平均最大干潮面以上四米ニ埋築シ、其ノ前面ニハ水深十米ノ繫船岸壁ヲ築造シ以テ外國貿易用ニ充テ、一萬噸級汽船七隻内外ヲ同時ニ繫留セシメ得ルモノトス。

(ロ) 内國貿易用トシテ前記外國貿易用埋立地以東第一船溜入口ニ至ル間ノ沿岸幅約二十米ヲ埋築シ、之ニ水深二米四ノ岸壁ヲ築設シ、中國通汽船並ニ公私汽艇繫留棧橋ノ設置箇所ニ充テ、尙ホ第一船溜内ハ其ノ南隅ノ一部ヲ埋築シ、其ノ前面ヲ一米八岸壁トシ舢荷役ノ用ニ供スルモノトス（本項ノ計畫ハ昭和四年度ニ於テ當初ノ計畫ヲ上記ノ如ク變更セルモノナリ）。

(ハ) 白木崎以南外國貿易用埋立地ニ接シテ、在來海岸ニ並行シ、幅平均九十一米、長八百三十六米ヲ埋立テ、從來ノ貯炭場ヲ此處ニ移シ其ノ前面ニ水深三米六ノ岸壁ヲ築キ石炭ノ荷役ノ用ニ供スルモノトス。

(ニ) 前記新貯炭場ノ西南方、鐵道省埋立地ノ前面ニ、長六百七十三米ノ防波堤ヲ築造シ以テ舢船ノ碇泊ニ便ナラシメントス。

(ホ) 以上埋築面積ハ總計約二十二萬四千百平方米ニシテ、内外國貿易部十二萬七千六百平方米、内國貿易部一萬七千八百平方米、石炭取扱場七萬八千七百平方米ナリトス、而シテ埋築地上ニ施設スベキ倉庫、上屋、鐵道、道路、其ノ他ノ諸設備ハ總テ後日ノ經營ニ待ツモノトス。

以上既定計畫ノ外昭和四年度ヨリ同六年度ニ亘リ、左記工事ヲ追加施行スルコトトナレリ。

(へ) 前記二米四岸壁前面ニ、長二十米、幅九米一ノ鐵筋混凝土製浮棧橋二個所ヲ設ケ、一ヲ關門渡船用ニ他ヲ一般公私船舶發着繫留用ニ充ツルモノトス。

(ト) 前記防波堤ヲ尙ホ其ノ西端ヨリ小森江一本松ニ向ヒ、延長九十米追加築造スルモノトス。

工 事 概 況

設備及船舶機械 本工事施行ニ當リ先以テ埋立豫定地ノ西端宇葛葉海岸ニ假護岸ヲ施シ、其ノ内部ヲ埋立テ以テ工場敷地ヲ得漸次事務所、倉庫等ノ建設及浮函製作工事に用ノ諸設備ヲ整ヘタリ、而シテ船舶機械類ノ修理製作ハ主トシテ關門海峽改良工事に屬下關機械工場ニ於テ施行シ、其ノ簡易ナルモノ又ハ混凝土用各種型枠、進水臺、製

作臺等ノ如キ、現場ニテ施工スルヲ便宜トナスモノハ修築事務所ニ於テ製作セリ、又浚渫工事、岸壁床掘工事及埋立工事(下水工事を除ク)ハ作業船艇運用上ノ便宜ノタメ之レヲ關門改良事務所ニ於テ施行セリ。

本工事ニ使用シタル主ナル工具及設備ハ左表ノ如シ。

名 稱	單位	數 量	摘 要
函進水臺	臺	三	一〇米岸壁函用 一。三、六米岸壁函用 一。防波堤函用 一。
函製作臺	臺	一一	一〇米岸壁函用 三。三、六米岸壁函用 五。防波堤函用 三。
捲揚塔	組	一	箱槽共
起重機	臺	一二	陸上掘付、一、遮半乃至二遮捲一〇。船上掘付一五遮及二、〇遮捲二。
混和機	同	三	陸上掘付〇、八立方米練 一。船上掘付 同 上 二。
變電裝置	箇	一	配電盤 一組。 變壓機 三個。
軌條	米	八、〇八六	三〇近一六二。二五近 五四三。一五近 三二一。輕便七、〇七〇。
土砂運搬車	臺	七一	〇、六立方米積 六。 〇、三立方米積 六五。
淺灘船	艘	五	鋤鏈式一時間能力一二〇立方米乃至四八〇立方米 四。
唧筒船	同	二	ブリストマン式一時間能力一二立方米 一。
鐵孔船	同	二	一時間能力一八〇立方米及三六〇立方米

自航土運船	同	四	三〇〇立方米積
曳船	同	五	一三七噸乃至六二噸
土運船	同	二	一二〇立方米積 一一〇・六〇立方米積 七〇・一二立方米積 四〇
雜船	同	三九	汽艇八。モーターボート一。給水船四。材料運搬船六。傳馬船二〇。

設計並ニ施工 工事ハ之レヲ大別シテ、岸壁、防波堤、棧橋、埋立並ニ浚渫ノ五トス。

一 岸壁工事 一〇米及三・六米岸壁ハ鐵筋混凝土製函ヲ、二・四米及一・八米岸壁ハ同L型塊ヲ使用築造セリ、其ノ構造ハ基礎床掘施行跡ニ所定深迄ノ捨石ヲ施シ、潜水夫ヲ使役シテ上部ヲ既定ノ地形ニ均ラサシメ、其ノ上ニ函又ハL型塊ヲ捨付ケ、函ニアリテハ前半部ニ水中混凝土ヲ、後半部ニ土砂ヲ填充シ、其ノ上部ニ場所詰混凝土ヲ施工シ、然ル後兩者共雜石ヲ以テ相當裏込ヲナシ背面ヲ埋立テ、笠石ヲ据ヘ付ケ以テ計畫高ニ達セシメ、防舷材及繫船柱ヲ適當ノ間隔ニ配置セリ。

鐵筋混凝土製函ハ、一〇米岸壁用ノモノハ縦ニ一箇、横ニ五箇ノ隔壁ヲ設ケテ一函ヲ十二室ニ分チ、三・六米岸壁用ノモノハ横ニ二箇ノ隔壁ヲ設ケテ一函ヲ三室ニ分チ、鐵筋ハ總テ直径十六耗ノ丸鋼ヲ使用シ、混凝土ノ配合ハ一、二、四、トセリ、而シテ混凝土打終了後三週間乃至四週間ヲ經テ進水シ、之ヲ曳航シテ所定ノ位置ニ据付タリ。

L型塊及方塊ハ、混凝土打終了後約一週間ヲ經テ、起重機船ニヨリ之レヲ他ニ移シ其ノ跡ニ順次繰返シ製作セリ、混凝土ノ配合ハL型塊ハ一、二、四、方塊ハL型塊ト同様或ハ一、三、六ノ割合トセリ、塊ハ凡テ起重機船ヲ使用シ之レヲ吊リ所定ノ位置ニ運搬シ据付ヲナセリ。

函及L型塊ノ主要寸法並岸壁工事功程左表ノ如シ。

函 主要寸法表

種別	長	高	吃水	上幅	下幅	混凝土容積	鐵筋重量	函重量	摘要
一〇米岸壁用函	一九・〇九米	一二・〇七米	九・二七米	五・八九米	八・四八米	五二・八立方米	三・四四噸	五三・八七噸	
三・六米岸壁用函	九・〇九米	五・〇三米	四・一八米	三・二五米	三・九四米	五七・六立方米	一・七七噸	一四・一四噸	

防波堤用 橋用浮函	一、九〇九 二〇〇〇	四、八五 二、七三	三、七八 一、六一	二、八七 九、〇九	三、六四 —	九六、〇 九六、〇	五、一四 三〇、〇九	二、三三、七〇 二、七四、三五
--------------	---------------	--------------	--------------	--------------	-----------	--------------	---------------	--------------------

L型塊主要寸法表

種別	長	高	幅		混泥土容積	鐵筋重量	塊重量	摘
			上	下				
一、四米岸壁用塊	一、五三	六、六六	〇、六〇	三、七九	八、〇四	〇、六七	一九、三一	
一、八米岸壁用塊	一、八三	五、四五	〇、六〇	三、四八	七、〇七	〇、六八	一七、二七	

岸壁工事功程表 (昭和六年一月末現在)

種別	竣功長	工費	單位當工費	竣功歩合	着手年月	竣功年月	構法
一〇米岸壁	一、三六、七	一、八二九、四七五、九四	一、三七、八、九七	完 成	大正二〇、一	昭和五、六	函 据 付
三、六米岸壁	八三、〇	四九四、四五、三九	五九五、〇三	九割九分	同 八、六	工事中	同
二、四米岸壁	五九、七	二〇、八四、二五	三四〇、五二	九割八分	同 一〇、五	同	L型塊据付
一、八米岸壁	二〇、四	五、八三、一七	二七四、七九	九 割	昭和四、一〇	同	同
一、五米岸壁	—	一、三〇、一六	—	—	同 六、一	同	方塊据付

岸壁・防波堤及棧橋工事功程内譯表

(昭和六年一月末現在)

工種別	岸壁名 計畫長 種別 單位	十米岸壁			三米六岸壁			二米四岸壁			一米八岸壁			一米五岸壁			防波堤			工事名 數量 種別 單位	棧橋					
		1.327*3			836*4			623*6			255*0			90*9			762*7				2箇所					
		數量	工費	單位當工費	數量	工費	單位當工費	數量	工費	單位當工費	數量	工費	單位當工費	數量	工費	單位當工費	數量	工費	單位當工費		數量	工費	單位當工費			
床捨地	堀石均	米	1,3267	101,993.09	76.87	8363	8,422.82	10.07	603.91	19,860.42	32.89	255.0	4,404.35	17.27						浮屋	函	個	2	28,142.11	14,071.06	
地	形均	〃	1,3267	65,813.01	49.60	8363	37,685.94	45.06	587.3	18,282.34	31.13	255.2	3,411.71	13.37			759.4	165,707.69	218.21	取付	橋	個	2	8,376.00	4,188.00	
函製作及据付	塊製作及据付	個	69	831,142.14	(12,045.54) 626.47	88	173,862.67	(1,975.71) 207.89									37	85,679.27	(2,315.65) 121.08	渡波橋	懸柱	本	4	10,850.00	5,425.00	
函内填充混凝土	〃	〃	61	5,203.62	(85.31) 3.92	102	10,586.07	(103.78) 12.66	489	87,171.00	(178.26) 144.44	163	26,695.64	(163.77) 104.61			257	9,678.70	(37.66) 21.18	上	屋	棟	2	4,277.54	(1,069.39) 2,138.77	
函内填充土砂	〃	〃	69	360,008.61	(5,217.52) 271.36	88	69,548.87	(790.33) 83.16									37	49,173.13	(1,329.00) 73.46	架設	設	箇所	2	8,652.22	4,326.11	
頂部混凝土	裏込	米	69	4,241.23	(61.47) 3.20	88	2,903.41	(32.99) 3.47									37	1,091.25	(29.49) 1.63	保護	杭	本	2	189.08	94.54	
階段	笠	箇所	1	152,048.36	114.61	821.0	54,888.73	66.85	50.6	2,349.37	(46.43) 3.89	16.88	1,028.84	(60.95) 4.03			648.58	27,728.16	42.75	雜費	費	本	40	927.87	(23.20) 463.94	
防舷材	同修理	組	1,3267	51,050.69	38.48	8363	32,871.63	39.30	588.0	34,229.87	58.21	255.2	7,614.65	29.83						一部捨石ヲ施工シタルノミニ付省略ス						
繫船柱	梯子	箇所	1	291.53	(291.53) 22	1	453.03	(453.03) 54	4.8	3,894.63	(811.38) 67.2	24	1,607.37	(669.73) 7.88												
假土	基礎加重	米	1,2907	15,241.14	11.49	7637	11,115.51	14.55	543.0	4,026.10	7.11	97.5	2,264.12	23.22												
防舷材取付箱	燈臺	箇所	69	31,466.01	(456.03) 23.72	131.02	5,286.03	(40.35) 6.41	49.8	2,494.93	(50.10) 5.98	24.6	1,618.56	(65.79) 10.59			33.5	2,578.05	(76.96) 12.61							
雜費	費	米	11	4,861.50	(441.95) 3.66	102	4,586.07	(44.96) 5.48	29.0	1,210.31	(41.73) 2.01															
合	計	米	56	28,914.71	(516.33) 21.79	43	2,792.61	(64.94) 4.43	31	455.34	(14.69) 8.8	—	155.19	(19.00) 1.27			75.3	1,554.39	(20.64) 2.92							
假土	基礎加重	米	3	877.31	(292.44) 6.6	1	265.46	(265.46) 3.2									4.8	148.28	(30.89) 3.7							
防舷材取付箱	燈臺	箇所							21.8	4,071.82	(186.78) 6.75															
雜費	費	米							163.6	726.37	(4.44) 1.20															
合	計	米							64	601.48	(9.40) 1.12															
合	計	米	1,326.70	1,829,475.94	1,378.97	831.00	494,455.39	595.03	592.76	201,841.25	340.51	229.72	57,823.17	251.71			694.51	377,559.63	543.63	合計				66,921.12	33,460.56	
竣功歩合			完成			九割九分				九割八分			九割					九割一分		竣功歩合			完成			

備考 1.各工種竣功數量ハ完成高ト部分竣功高ニ竣功歩合ヲ乘ツテ高トノ和ヲ計上ス 1.岸壁及防波堤合計欄數量ハ内十米岸壁ハ實測竣功長ニシテ其他ハ各工種ノ單位當リ金額ノ合計ヲ以テ竣功金額ノ總計ヲ除シテ算出シタルモノナリ
 1.函、塊、階段、防舷材、同修理、繫船柱、梯子等ノ單位當リハ總長ニ對スルモノニシテ其上欄括弧ヲ附シタルハ各々其單位ニ對スルモノヲ示シ尙一米八岸壁繫船柱及防舷材取付箱並ニ防波堤燈臺ノ單位當リハ工事未施行ノ爲メ便宜設計單價ヲ計上セリ

二 防波堤工事

三・六米岸壁西南方鐵道省埋立地ノ前面ニ當リ、長サ七百六十二米七ノ防波堤ヲ設クルモノニシテ、干潮面以下一・八米ノ捨石堤上ニ、高四・八米ノ鐵筋混凝土函ヲ据付ケ、函内ニハ各室毎ニ其ノ兩側壁ニ接シ之ニ平行シテ配合一、三、六ノ方塊ヲ吊込ミ、兩側塊ノ内方ノ空所ニ土砂ヲ填充シタル後、函内ノ排水ヲナシ、壁ト塊トノ間隙ニ配合一、二、四ノ混凝土ヲ填充セリ。

上述函上ニハ兩側ニ配合一、二、四ノ混凝土壁ヲ施工シ其ノ中間ニ土砂及砂利ヲ填充シ其ノ上ヲ厚サ約二十糎ノ混凝土ヲ以テ覆ヘリ。

而シテ防波堤外側ニハ斷面一・二米角ノ混凝土塊ヲ一列ニ配置シテ波浪及潮流ニ因ル捨石ノ移動ヲ防禦シ、尙ホ本堤曲折部ニハ照明燈ヲ設置セリ、其ノ功程次表ノ如シ。

防波堤工事功程表

(昭和六年一月末現在)

種別	竣工長	工費	單位當工費	竣工歩合	着手年月	竣工年月	構法
防波堤	六九四・五 ^米	三七七、五五 ^円 ・六三	五四 ^円 ・六三	九割一分	大正二〇、一 ^年	工事中	函据付

三 棧橋工事 二・四米岸壁前面ニ、長二十米、幅九・一米ノ鐵筋混凝土製浮棧橋二個所ヲ設クルモノニシテ、先ヅ各所定ノ位置ニ鐵筋混凝土杭ヲ基礎トセル、渡橋懸柱及上屋支柱ヲ渡橋ノ兩側ニ設置シ、懸柱ニハ平衡重錘ヲ以テ渡橋ヲ支持スベキ裝置ヲ施シ、各浮函ハ鐵鎖ヲ以テ之ヲ八個ノ混凝土製錨塊ニ碇繫シ、尙ホ棧橋ニハ屋根ヲ渡橋ニハ屋根並ニ兩側ノ圍ヒヲ附シタリ、(浮函ノ寸法ハ前掲函主要寸度表參照) 其ノ功程次表ノ如シ。

棧橋工事功程表

種別	數量	工費	單位當工費	着手年月	竣功年月	構法	摘要
棧橋	貳ヶ所	六、九三・三	三、四六・六	昭和四、四月	昭和五、五月	浮函	完
						完	成

四 埋立工事 各岸壁内部ノ埋立ハ關門海峽改良工事ノ浚渫工事及本修築工事ノ床掘工事等ヨリ生ジタル土砂ヲ直接土運船ヨリ捨込ミテ干潮面以上約一・五米ニ達セシメ、夫レヨリ上層ハ右兩工事其ノ他ヨリ生ジタル浚渫土砂ヲ一旦埋立地沖ニ投入セシ

メ然ル後コレヲ唧筒船ニヨリ吸揚ゲ埋立地内ニ排出シテ施行セリ。其ノ功程次表ノ如シ。

埋立工事功程表

(昭和六年一月末現在)

箇所	埋立面積	埋立平均深	埋立土量	工費	單位當工費	摘要
外國貿易區域	二八、四九六	米	五、六	一七、九〇・二	四	内石炭取扱區域
内國貿易區域	一七、七六八		一、八五四、四〇〇・九八	〇・八一	四	三三〇平方米、
石炭取扱區域	七六、七四四			〇・一〇	四	及内國貿易區域
計	一二三、〇〇八		五・六	一七、九〇・二	〇・一〇	四九五平方米
			一、八五四、四〇〇・九八	〇・八一	四	工事中

尙ホ埋立ニ伴ヒ在來ノ諸下水ヲ舊海岸吐口ヨリ新岸壁ニ導キ、第一船溜ニ吐口ヲ有スル榮川下水暗渠ヲ、二・四米岸壁ニ流導スベキ下水繼足ノ工事ヲ施行セリ、其ノ延長幹線六筋五百四十四米五、支線一筋七十七米ニシテ、一月末現在竣功高ハ幹線四百七十九米、支線七十三米一、工費約六萬二千五百圓ナリトス。

五 浚渫工事 既定計畫ニ基キ築造スベキ岸壁ノ前面區域中、之ニ相當スル水深ヲ

缺ク部分ヲ浚渫シテ適當ノ深度ヲ與ヘタリ、浚渫ニハ主トシテ「ブリストマン」式浚渫船ヲ使用シタル外、鏈鏈式浚渫船ヲモ併用シ、大正十年五月ヨリ着手シ、浚渫土砂ハ所定ノ場所ニ運搬投棄セリ。其ノ功程ヲ示セバ左ノ如シ。

浚渫工事功程表

種別	浚渫面積	浚渫深度	浚渫土量	工費	單位當工費	摘要
浚渫	二,九九〇 ^{平方米}	一・八一 ^米	五、一七・〇三 ^{立方米}	三、〇〇・一四 ^円	一・五九 ^円	大正十年五月着手 昭和六年一月竣功

六 諸工事施行順序 大體石炭取扱所區域ノ西端ヨリ着手シ漸次東方ニ進ミ同時ニ

一方外國貿易部ノ東端ヨリ着手シ、漸次西方ニ及ボセリ。

石炭取扱所區域ハ大正九年八月始メテ三・六米岸壁用浮函ノ製作ニ着手セシ以來銳意工ヲ進メ、大正十三年度末迄ニ早クモ大部分竣功スルニ至レリ、仍テ大正十四年六月ニ至リ門司市ニ對シ右區域中當工用地トシテ使用ノ部分ヲ除キ東方、長約五百七十二米六、幅約七十三米ニ亘ル埋立地ノ利用ヲ承認セシガ鐵道省ノ施行ニ係ル石炭棧

橋ノ工終ルト共ニ元廣石海岸ニアリシ舊石炭置場ヲ此所ニ移轉セリ。

外國貿易區域ハ大正十一年度ニ東北端部一部ノ埋立完成セシニヨリ大正十二年四月大藏省ニ對シ東北端ヨリ、長百八十米、幅約九十一米ノ埋立地使用ヲ承認セシガ、同省ニ於テハ此處ニ稅關合同廳舎ヲ建築セリ、其ノ以西ハ當時舊石炭置場移轉前ナリシヲ以テ、此ノ方面ノ工事ヲ一時中止シ西端石炭取扱所隣接個所ヨリ東方ニ向ヒ工事ヲ進メ、該埋立地ノ成ルニ及ビ一時石炭置場ニ供用シ鐵道省ニ於テ石炭取扱所ニ於ケル石炭棧橋ニ接續シテ假石炭棧橋長百八十米ヲ架設セリ、尙ホ其ノ東方埋立地ハ淺野「セメント」工場ニ於ケル材料荷揚及製品積出用假設備施行ノタメ一時其ノ使用ヲ許可セリ、該假設備完成迄ハ「セメント」工場ノ前面ヲ埋築スルコト能ハザルヲ以テ此ノ方面ノ工事モ亦一時中止セシガ此間舊石炭置場ハ全部移轉ヲ了セシヲ以テ、再ビ東方埋立地ニ接續シテ工事ヲ進メ昭和四年度初ニ本區域ノ埋立略ボ竣成セシニヨリ昭和四年十月大藏省ニ對シ既成部分ノ内東端ヨリ長約六百三十六米、幅平均八十八米ノ埋

立地及岸壁ノ假引繼ヲナシ同省ニ於テハ第一號上屋新築其他陸上設備ヲ施行セリ、斯クシテ外國貿易區域ハ昭和五年六月ニ工事完成シ同時ニ大藏省ニ於テハ鐵道引込線ノ敷設ニ着手セリ。

外國貿易區域以東ニ於ケル内國貿易區域ハ西方ヨリ順次東方ニ向ツテ工ヲ進メ昭和六年三月大體之レガ竣功ヲ見タリ。是等埋立地及岸壁ハ門司市ノ希望ニヨリ夫々其ノ利用ヲ承認シ目下市ニ於テ陸上設備ノ準備中ニ屬ス。

防波堤工事ハ大正十年一部捨石工事ヲ施工セルガ豫算ノ關係上一時休工シ昭和二年度末ニ至リ再び着手シ同六年三月防波堤函全部ノ据付ヲ終了セリ。

棧橋工事ハ昭和四年四月ヨリ着手シ同五年五月二ヶ所トモ竣功シ、直ニ門司市ニ對シ之ガ利用ヲ承認セリ。

而シテ函工場設備ハ工事ノ進捗ニ伴ヒ不用ニ歸シタルモノヨリ順次之ヲ撤去シ、既定計畫岸壁線外ノ假護岸及工場敷地除却跡ニハ方塊ヲ以テ一・五米岸壁長九十三米六ヲ築造スルコトトシ目下工事施行中ナリ。

材料勞力 使用材料中「セメント」ハ小野田及淺野兩會社製ノモノヲ主トセシガ函内填充及頂部混凝土ニハ、此ノ外ニ唐津産火山灰及製鐵所製高爐「セメント」ヲ使用セシコトアリ、是等ハ凡テ標本ヲ大阪土木出張所試験係ニ依囑シテ規格試験ヲ行ヒタリ、砂利ハ玄海ニ面スル山口縣豊浦郡宇賀村本郷海岸ノモノヲ主トシ、同縣下ノ吉田川、厚狹川、岩國川等ヨリモ採取シ、併セテ割砂利及製鐵所製鑛滓砂利ヲモ使用シ、砂ハ吉田川尻海岸ヨリ採取セリ、又捨石及裏込用雜石ハ關門海峽東口白野江海岸及西口彦島町字畑口海岸ニ於テ石材採取權ヲ獲得シ直營採取運搬シタル外、地質良好ナル部分ノ捨石ニハ關門海峽改良工事ヨリ生ゼル碎石ノ良質ナルモノヲ利用セリ、函進水臺、製作臺及型枠等ニハ紀州高野山ノ檜材、宮崎縣飫肥地方ノ杉材及米松ヲ、防舷材ニハ濠洲産「ターペンタイン」ヲ使用セリ。

昭和六年一月末現在ニ於ケル主ナル勞力及材料費左ノ如シ。

勞 力

職 名	員 數	賃 金	一人當賃金
船 夫 其 他 員	104,134人	28,966.36円	2.10円
大 工	66,036	19,876.10	2.17
石 工	4,188	19,674.43	2.71
潛 水 夫	3,336	77,140.33	2,046
同 職 員	23,993	77,024.88	3,236
職 工	6,806人	62,366.82	9.16
人 員	91,144	20,904.86	2.29
夫 女	364,311	60,991.36	1.67
夫 女	147,101	140,176.96	0.95

材 料

品 名	數 量	金 額	平均 單 價
セメント	26,445 ^噸	748,130.55円	28.29円
山 灰	27,255 ^噸	30,600.96	1.13

工 費

材 名	數 量	金 額	平均 單 價
雜 砂	24,833 ^{立方米}	500,768.59	20.17
砂 利	101,447	311,101.05	3.07
笠 石	51,902	74,933.93	1.44
鐵 筋	2,433 ^噸	22,070.10	8.68
木 材	17,751 ^噸	246,186.35	14
石 炭	16,868 ^噸	166,376.77	9.86

起工以來昭和六年一月末ニ至ル精算額ニ其ノ後ノ所要見込額ヲ加算セルモノヲ掲記スレバ左ノ如シ。

工 費 精 算 表

費 目	豫 算 高	精 算 高	殘 高	摘 要
岸壁及防波堤費	三、二八、四三 ^円	三、三七、四三 ^円	五、九七 ^円	

埋立費	浚渫費	棧橋費	船舶及機械費	營業繕費	臨時手当當	共濟組合給與金	事務費	計
二七六、七三	七、〇八四	五〇,〇〇〇	一、〇八六、九三〇	三三八、三二	四九五、〇〇〇	一五、三六〇	三三七、〇〇〇	五、八九〇,〇〇〇
二八、六八〇	三七,四三三	五九,〇〇三	一、二七、三〇九	八五、九五	三三、〇五六	二九、一七八	二〇,三三三	五、六五、八六六
△	△	△	△	△	△	△	△	
五八、〇四三	三〇,三三九	九、〇〇三	二〇、三七九	三三、四〇六	一八、九七四	二九、一七八	四、八二二	三三、二二四
△	△	△	△	△	△	△	△	
昭和五年度ニ於テ一〇七、〇〇〇 圓減額セラレタルニヨリ 實際殘高ハ二六、〇五圓ナリ								

備考 一、本表殘高欄中△印ノ附シアルハ豫算高二對スル超過額ナリ
一、本表金額ハ圓位ニ止ム

昭和六年四月

内務省下關土木出張所

福岡市古小路町二十五番地

印刷人 山田純一郎

福岡市古小路町二十五番地

印刷所 山田印刷所

電話 { 千十八番
四二二七番